

認知症早期発見への嗅覚機能スクリーニング検査の有用性

浦上 克哉

鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座

認知症をきたす代表疾患であるアルツハイマー型認知症（AD）では記憶障害が出現する前に嗅覚障害が出現する。病理学的にも嗅神経に早期からアミロイド β 蛋白が蓄積することが報告されている。早期に、この嗅覚障害を発見し病気の進展を防ぐことが期待される。そこで、短時間で負担なく施行でき、有効性が期待できる嗅覚スクリーニングキット（ニンテスト）を開発した。嗅覚機能検査は認知機能検査より被験者の抵抗感が少なくスクリーニング検査として優れていると思われる。本邦でも抗アミロイド β 抗体薬が認可され MCI から軽症の AD 診断が求められている。現在進行中の治験においては、MCI よりさらに前段階である Preclinical AD が対象となっている。MCI から Preclinical AD を早期に見つけるために、脳ドックでの嗅覚機能のスクリーニングキットの活用が切り札になる可能性がある。

略歴 浦上 克哉（うらかみ かつや）

- 1988 年 3 月 鳥取大学医学部大学院博士課程修了
- 1989 年 4 月 鳥取大学医学部脳神経内科・助手
- 1996 年 2 月 鳥取大学医学部脳神経内科・講師
- 2001 年 4 月 鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座環境保健学分野・教授
- 2016 年 4 月 北翔大学・客員教授（併任）
- 2022 年 4 月 鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座（寄附講座）・教授



所属学会・認定・資格

- 日本認知症予防学会（代表理事・専門医）、日本老年精神医学会（理事）
- 日本老年学会（理事）、日本老年医学会（代議員・指導医）
- 日本認知症学会（代議員・専門医）、日本脳ドック学会（評議員）